



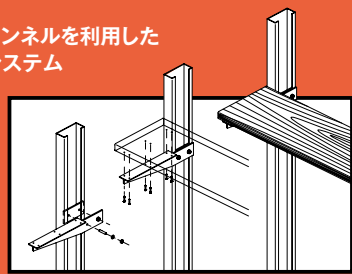
地上からのクリアランスがある独特のフォルム。高床式のデッキスペースがリビング空間やガレージと連続することで、どこまでも伸びやかな開放性を感じさせてくれるのです。



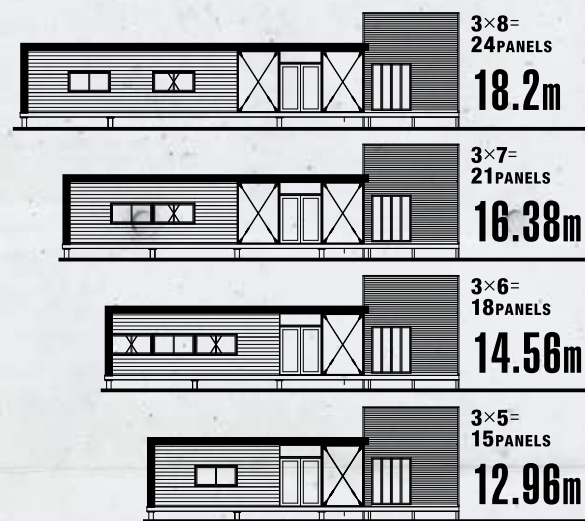
リビング空間とガレージが、ガラス間仕切りを通して一体になっており、さらに外部のウッドデッキとも連結されている空間の伸びやかさがよくわかる。デイトナハウスの提案するライフスタイルそのもののカット。

**LGSパネルのCチャンネルを利用した壁面アタッチメントシステム**

デイトナハウスのLGSパネルは、艶消し黒のパウダーコーティング。その素材感ほ素透ですが、図のようなアタッチメントシステムで自由自在に棚や収納を設置できるシステムになっています。\*構造上の家具であるとはこのことです。



**SCALE 縦横比率が分かる立面図で必要な土地面積をチェック!**



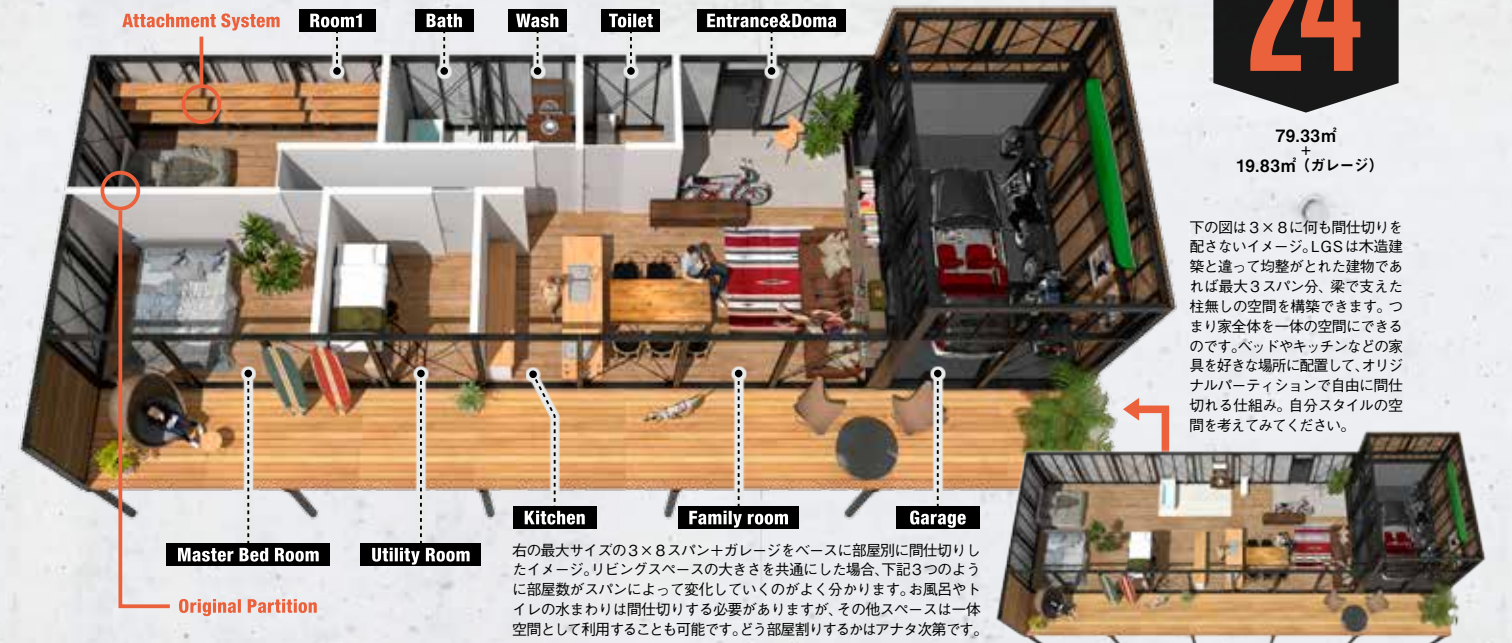
タイプ別のプロポーションがよくわかる立面図。フォルムデザインのポイントは、縦横比率と突起のバランス。京都龍安寺の石庭の石のように縦の突起と横への伸びを表現したカタチが日本人の心にスッとおさまる。高床なのでさらにそのフォルムが際立つのです。

し。また家族4人の楽しい暮らしまで、いろいろ対応できます。  
この建物は所謂コンクリートの基礎を使用しません。スパイクのように打ち込んだ鋼管杭「スパイク」LGSを地上まで伸ばし、その上にトラックのシャシーのような鉄骨土台を回して、LGSパネルを設置します。そうして浮かび上がらせることで平屋のフォルムが際立つのです。  
右ページで提示しているイメージ図には、固定された白い壁の様な間仕切りがある印象ですが、実際には特殊なパーティションシステムになっています。つまり、どのように間仕切りを思いのまま。もしパーティションはいらないって人なら、最初から付けないってことも可能です。それと同時にLGSパネルを利用して、スタイリッシュな壁収納システム化することもできます。ガレージはオプションですが、デイトナ読者には必需品。間口2スパン×3スパンですが背が高く、上部はロフト状の収納スペースになっています。  
\*構造上の家具でもあります。これがこのシステム最大の長です。この規格住宅のリリースは、本年11月を予定しています。ご期待ください。

**Theme**

**空中にふわりと浮かび上がった平屋  
遂にタイプ別商品化に着手!**

自分の予算や生活スタイルに応じ、パネルの枚数を調整できるのがデイトナハウスの特徴。今回は商品化を予定している平屋を参考に、自分に必要なパネル枚数をイメージしてみてください。



**[3枚×7枚] 21 PANELS**

69.4㎡ + 19.8㎡ (ガレージ)



たとえば、子供が小さい間は寝室空間を一体にして、部屋が必要になればオリジナルパーティションで分けてしまうのもアリです。そう考えると本当に必要なスパンが見えてきます。

**[3枚×6枚] 18 PANELS**

59.5㎡ + 19.8㎡ (ガレージ)



こちらは2人暮らしにちょうど良いプラン。因みにパーティションは、いろんなテイストの壁を作りますが、その最上部は抜けています。そのことで、天井が一体に見えるのです。

**[3枚×5枚] 15 PANELS**

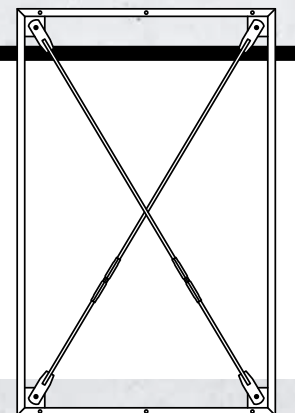
49.5㎡ + 19.8㎡ (ガレージ)



最もコンパクトな5スパンタイプになると、生活に「必要」なスペースが一気に際立って見えてきます。それでも外に伸びる庇とウッドデッキが伸びやかな空間を感じさせてくれます。

**What's Daytona House?**

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。



**INFORMATION**  
**LDKinc.**  
デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田敦士  
WEB: [www.ldk.co.jp](http://www.ldk.co.jp)  
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP  
[www.daytona-house.com](http://www.daytona-house.com)